

承認番号	22100AMX01132000
薬価収載	2009年9月
販売開始	1994年7月

自律神経調整剤

処方箋医薬品[※]

トフィンパム細粒10%[CH]

(トフィンパム細粒)

【貯法】
室温保存
【使用期限】
外箱に表示の
期限内に使用すること。

*【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
ロミタピドメシル酸塩を投与中の患者(「3.相互作用」の項参照)

【組成・性状】

販売名	トフィンパム細粒10%[CH]
成分・含量 (1g中)	日局 トフィンパム 100mg
添加物	乳糖水和物、D-マンニトール、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、軽質無水ケイ酸
剤形・性状	白色～微黄白色の細粒剤

【効能・効果】

下記疾患における頭痛・頭重、倦怠感、心悸亢進、発汗等の自律神経症状
自律神経失調症、頭部・頸部損傷、更年期障害・卵巣欠落症状

【用法・用量】

通常、成人にはトフィンパムとして1回50mg、1日3回経口投与する。
なお、年齢・症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

- * 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
- 急性閉塞隅角緑内障の患者[抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。]
 - 重症筋無力症の患者[筋弛緩作用を若干有する。]
 - 脳に器質的障害のある患者[作用が強くあらわれることがある。]
 - 中等度又は重篤な呼吸不全のある患者[呼吸機能が低下することがある。]
2. 重要な基本的注意
眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。

* 3. 相互作用

(1)併用禁忌(併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ロミタピドメシル酸塩 ジャクスタピッド	ロミタピドメシル酸塩の血中濃度が著しく上昇するおそれがある。	本剤がCYP3Aを阻害することにより、ロミタピドメシル酸塩の代謝が阻害される。

(2)併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 フェノチアジン誘導体 バルビツール酸誘導体等	中枢神経抑制作用が増強することがある。	両薬剤の中枢神経抑制作用が相加的に増強する可能性がある。
アルコール	中枢神経抑制作用が増強することがある。	両者の中枢神経抑制作用が相加的に増強する可能性がある。
タクロリムス水和物	タクロリムスの血中濃度が上昇することがあるので、本剤を減量又は休薬する等適切な処置を行うこと。	本剤がCYP3A4によるタクロリムスの代謝を抑制することによると考えられる。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

その他の副作用

以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

	頻度不明
依存性 ^[注1]	薬物依存
精神神経系	眠気、めまい・ふらつき、頭痛、不眠、不安、焦躁、抑うつ症状、手足のふるえ、しびれ等
消化器	悪心・嘔吐、口渇、食欲不振、便秘、腹痛、下痢等
過敏症 ^[注2]	発疹、痒痒感、発熱、顔面浮腫等
肝臓	AST (GOT)・ALT (GPT)の上昇等
その他	倦怠感、脱力感、動悸、血圧上昇、ほてり、乳房痛、乳汁分泌、月経異常

注1) 他のベンゾジアゼピン系薬剤で連用により薬物依存を生ずることが報告されているので、本剤の投与にあたっては観察を十分にを行い、用量及び使用期間に注意し慎重に投与すること。

注2) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦(3ヵ月以内)又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。妊娠中に他のベンゾジアゼピン系薬剤(ジアゼパム、クロルジアゼポキシド等)の投与を受けた患者の中に奇形を有する児等の障害児を出産した例が対照群と比較して有意に多いとの疫学的調査報告がある。]

(2)妊娠後期の婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

[ベンゾジアゼピン系薬剤で新生児に哺乳困難、嘔吐、活動低下、筋緊張低下、過緊張、嗜眠、傾眠、呼吸抑制、無呼吸、チアノーゼ、易刺激性、神経過敏、振戦、低体温、頻脈等を起こすことが報告されている。なお、これらの症状は、離脱症状あるいは新生児仮死として報告される場合もある。また、ベンゾジアゼピン系薬剤で新生児に黄疸の増強を起こすことが報告されている。]

(3)分娩前に連用した場合、出産後新生児に離脱症状があらわれることが、ベンゾジアゼピン系薬剤で報告されている。

(4)授乳中の婦人には投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には授乳を避けさせること。
[動物実験(ラット)において、乳汁中に移行することが認められている。]

7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

8. 過量投与

本剤の過量投与が明白又は疑われた場合の処置としてフルマゼニル(ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤)を投与する場合には、使用前にフルマゼニルの使用上の注意(禁忌、慎重投与、相互作用等)を必ず読むこと。

9. その他の注意

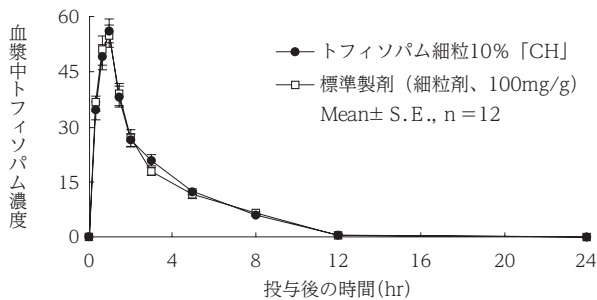
投与した薬剤が特定されないままにフルマゼニル（ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤）を投与された患者で、新たに本剤を投与する場合、本剤の鎮静・抗痙攣作用が変化、遅延するおそれがある。

【薬物動態】

1. 生物学的同等性試験

トフィソパム細粒10%「CH」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ0.5g（トフィソパムとして50mg）健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中トフィソパム濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。¹⁾

(ng/mL)



	判定パラメータ		参考パラメータ
	AUC ₀₋₂₄ (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)
トフィソパム細粒 10%「CH」	177.1±5.4	57.42±2.80	1.0±0.1
標準製剤 (細粒剤、100mg/g)	174.2±8.6	59.54±3.46	1.0±0.1

(Mean±S.E., n=12)

血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2. 溶出挙動

トフィソパム細粒10%「CH」は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められたトフィソパム100mg/g細粒の溶出規格に適合していることが確認されている。²⁾

【薬効薬理】

ベンゾジアゼピン系薬物の一種で、主として抗不安作用を示すが、催眠作用は弱い。ベンゾジアゼピン系薬物に共通の作用機序は、GABA_A受容体のサブユニットに存在するベンゾジアゼピン結合部位に結合することにより、抑制性伝達物質GABAの受容体親和性を高め、Cl⁻チャネル開口作用を増強して神経機能抑制作用を促進することである。³⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：トフィソパム (Tofisopam)

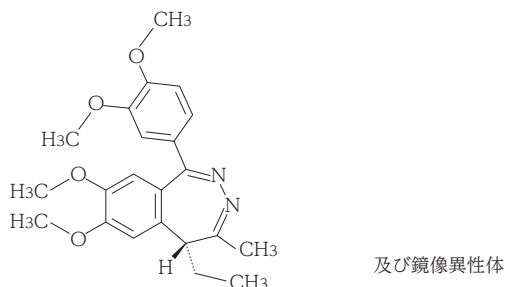
化学名：(5*RS*)-1-(3,4-Dimethoxyphenyl)-5-ethyl-7,8-dimethoxy-4-methyl-5*H*-2,3-benzodiazepine

分子式：C₂₂H₂₆N₂O₄

分子量：382.45

融点：155～159℃

構造式：



性状：トフィソパムは微黄白色の結晶性の粉末である。酢酸（100）に溶けやすく、アセトンにやや溶けやすく、エタノール（95）にやや溶けにくく、ジエチルエーテルに溶けにくく、水にほとんど溶けない。エタノール（95）溶液（1→100）は旋光性を示さない。

【取扱い上の注意】

安定性試験

最終包装製品を用いた長期保存試験（室温保存、3年）の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、トフィソパム細粒10%「CH」の室温保存における3年間の安定性が確認された。⁴⁾

【包装】

トフィソパム細粒10%「CH」

バラ：500g

【主要文献】

- 1) 長生堂製薬株式会社 社内資料（生物学的同等性試験に関する資料）
- 2) 長生堂製薬株式会社 社内資料（溶出試験に関する資料）
- 3) 第十七改正日本薬局方解説書
- 4) 長生堂製薬株式会社 社内資料（安定性試験に関する資料）

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

日本ジェネリック株式会社 お客さま相談室

〒100-6739 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

TEL 0120-893-170 FAX 0120-893-172

販売元



日本ジェネリック株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

製造販売元



長生堂製薬株式会社

徳島市国府町府中92番地